

第 6 回 船橋市交通ビッグデータ見える化協議会 議事概要

○開催日時：令和 4 年 8 月 2 日（火）14：00～15：00

○開催場所：船橋市役所 6 階 602 会議室 ※WEB 会議同時開催

○意見交換内容

これまでの協議会の開催状況と検討概要、今年度の対策検討エリアの選定結果及び今後の検討スケジュール、対策部会の進め方を説明した。

意見

- ・選定方法に示している指標のみで全て決めると最終的な行政的判断が入れにくいため、状況に応じて柔軟に選定していくと良い。
- ・通過車両がどこの渋滞を避けて、対策エリア内に進入してきたかを特定できたとしても、幹線道路側の渋滞対策の内容や対策時期があるため、エリア内の交通安全対策との整合性がとりにくい。幹線道路側の渋滞対策との連動がとれるような選定方法を適用するのも一つの方法である。
- ・PDCA サイクルを回していく上で、企画段階で市民の方の意見が収集できると良く、そういった意見を対策内容に反映できると良い。また、対策実施後のフォローとして効果検証も大切である。
- ・地域との合意形成を図る上で、実際にデータ分析結果を提示しているのか。地域の方の実感とデータ分析結果の整合性を確認することで、行政と住民の方との認識の擦り合わせができて、良いと感じる。
- ・合意形成の第一歩として今回の資料等を活用することで、市民の方に説明できると良い。
- ・本町地区について、渋滞は国道 14 号だけでなく国道 357 号も関係していると思われる。国道 357 号の混雑を回避するため、日の出交差点まで生活道路をショートカットする車両がいる可能性がある。
- ・誰もが納得するような対策は非常に難しいため、地域との合意形成が重要となってくる。その中でも、特に重点的に守っていくべき人が、通学中の生徒・児童であると考える。
- ・幹線道路の渋滞が原因で抜け道利用しているエリアであることが伺えるため、対策検討エリアの中だけ着目するのではなく、広域的に検討したほうが良い。
- ・前原地区については、通り抜け車両がどの路線で踏切を通行するかがポイントである。また、本町地区については国道 357 号が関わってくるため広域的な視点での検討が必要である。
- ・幹線道路の渋滞も検討していくのであれば、対策立案には短期、中期、長期の視点で検討を行うと良い。

○今後の予定

今後の予定を説明した。

- ・今年度は 8 月～9 月にかけて交通円滑化・交通安全対策部会を開催する。また、9 月末に第 7 回協議会を書面での開催、来年 2 月頃に対面での第 8 回協議会を開催予定であり、開催時期が決まり次第改めて連絡する。

【実施風景】

